

## 蜜源植物の作付けによる遊休農地の解消を支援しています

中能登農林総合事務所農業振興部



設置したミツバチの巣箱



蜜を吸うミツバチ

車で走っていると田んぼ一面に雑草が生い茂り、荒廃している姿を見かけたことはありませんか。このように農地を耕作せずに放置しておく、景観を損ねるだけでなく、病虫害の発生源となったり、雨水を貯めるダム機能が失われたりします。

当事務所管内の中能登町もそのような課題を抱えているところの一つです。遊休農地となっている原因は様々ですが、コメ余りで作付けができない、基盤整備が進んでいないため大型機械が入らない、所有者が高齢で耕作できないなどがその背景となっています。

このため、当事務所では中能登町とともに、雑草の発生を抑え、景観形成に資する、そして何よりも簡単に導入できる、そんな夢の作物を検討してきた結果、マメ科植物の“ヘアリーベッチ”を選定し、その栽培を地域住民に働きかけることとしました。

このヘアリーベッチは、土の養分を高め、良好な景観を作るという効果もありますが、蜜源植物（ミツバチが花から蜜を集めるための植物）でもあるため、蜜源植物の減少で悩んでいる養蜂農家の支援にもつながります。

昨年8月に種を蒔いたヘアリーベッチは、普及指導員の栽培管理指導により今年5月上旬から花が咲き始めたため、石川県養蜂組合の協力を得てミツバチの巣箱を設置しました。今回のヘアリーベッチの栽培面積は、まだ試験的な取り組みのため、面積は50アールと少なく、面的な広がりはありませんが、今後、このような取り組みが各地で芽生え、遊休農地の解消や地域の良好な景観形成、さらにはこの花を蜜源としたハチミツの特産品化など、町の活性化につながるよう今後も支援していきます。

問い合わせ先：中能登農林総合事務所農業振興部(0767-52-5522)